

【議会報告会】

○透析室他改修事業について、3 億円もの大幅な増額補正を行っており、一般市民としてはこのような予算計上に疑問を感じる。増額に至った要因や背景を説明してほしい。

⇒議員 市立四日市病院としても、良質な医療を早期に提供するため、当初予算にて改修費用を計上したが、設備等の老朽化が判明し、大幅な見直しの必要性が生じた。しかし、医療の提供時期がこれ以上遅れることを避けるため、今回の補正予算を計上したとの説明を受けている。

⇒議員 当初予算の積算方法に課題はあったが、市立四日市病院としても患者の目線に立ち、少しでも前進させたいという思いから今回の補正予算を計上したと理解している。

⇒議員 ご指摘の点は、委員からも多数の意見があった。施設改修にあたっては医療従事者の意見を取り入れることも必要ではあるが、市民の目線に立ち、効率性を持った経営も必要であるとの指摘を行った。また、当委員会としても、再発防止に向けた取り組みを行うよう厳しく指摘を行った。

○予算上の課題もあるが、患者の立場としては医療の提供開始時期を延期せず、早期に治療を受けられる体制にしてほしいと考える。患者の目線も必要ではないのか。

⇒議員 ご指摘のとおり、患者の目線は重要である。加えて、医療環境の充実による、良い医師の確保という視点も期待できるのではないかと考えている。

⇒議員 行財政改革に伴う人員削減による職員数の不足や、豊富な知識や経験を持った職員の不足も要因の一つであると考えます。議員としても、一刻も早く市民の期待に応え、良質な医療サービスの提供を行う信頼される病院となることを望んでいる。

【シティ・ミーティング】

○塩浜地区のまちづくり構想策定委員会では、公害イメージの払拭が課題となっている。

高校総体、国体の開催会場である中央緑地公園の最寄り駅の新正駅において、し尿処理施設からの悪臭がするという声があり、本市のイメージダウンになるのではないかと危惧する。食肉センター・食肉市場では悪臭や防音対策に取り組んでいるが、し尿処理施設はそのような対策が講じられておらず、悪臭による本市のイメージダウンは避けても

らいたい。

⇒議員 公害のイメージが蘇ることは避けなければならない。本市では悪臭の監視業務を行っており、必要な対策を講じるよう監視していきたい。

○公害のまちというイメージを払拭するため、地区にて、みんなのできるスポーツである卓球の大会開催を考えている。平成 28 年 12 月に四日市みんなのスポーツ応援条例が制定された。本条例は、理念条例であると捉えたが、地区への具体的な要望に応じてもらえるのか。ぜひとも、具体性のある施策に結び付くようにしてもらいたい。

⇒議員 本市ではスポーツが施策として確立されていなかったため、議員提案にて本条例を制定した。今後は、本条例を契機としてスポーツ推進計画が策定され、地域におけるスポーツ活動を推進できるようにしていきたい。

⇒議員 公害のイメージに対し、本市が心も体も元気なまちであることを発信したいという背景もあり制定した。公害の影響を大きく受けた地区がモデルケースとなり、いち早く条例制定の効果が具現化することを期待している。

○館長権限予算はいつまで継続する予定であるのか。また、まちづくりは継続的な取り組みが必要であることから、館長権限予算において実施された取り組みを当該予算にて継続できればよいと考える。

⇒議員 館長権限予算については、決算審査等にて各地区の予算使途について指摘を行った。地域の皆さんからは一定の評価をいただいております。新市長の予算編成の下においても継続すると思われる。しかし、恒久的に継続するものではなく、また、継続が必要な取り組みを当該予算で行うべきかどうかの判断も必要であると考えます。今後も予算の使途については引き続き監視していく。

○集会所の改修や防犯外灯の LED 化に対しては、補助金が交付されるが、集会所内の照明の LED 化は補助の対象とならないのか。

⇒議員 近年、自治会の加入率が低下しており、自治会での費用負担も大きいため、いただいた意見は担当部局に申し伝えたい。

○50 万円以上の経費を要する集会所の改修等であれば半額分の補助金が交付されるが、その負担が困難な自治会もあるため補助対象額を下げるもしくは、撤廃してはどうか。

また、集会所活動を活発化するため、パソコンやプロジェクター等の機器も必要であると考えており、補助の対象となるよう検討してもらいたい。

⇒議員 補助対象額の撤廃等に向け、検討していきたいと考える。

○河原田地区では、まちづくり構想を検討しており、以前に行政側から地方創生に対する意見聴取が行われたが、その結果報告がなされていない。聴取した意見はどのように反映されたのか。また、地方創生をはじめとする新たな施策が示された場合、従来のまちづくり構想とどのように関連付けがされるのか疑問である。

⇒議員 国の地方創生に関する補助メニューを活用するため、意見を聴取したのではないかと思われる。新しい補助金が創設され、いただいたご意見は今後のまちづくりの中で活用されるのではないかと考える。

○まちづくり構想と地方創生との関連性についての説明がなされなければ、それぞれの活動に影響が出るのではないか。また、聴取した意見を集約し、地域に共有することで、まちづくり構想の参考となるのではないかと考える。

⇒議員 いただいた意見は参考にしたい。今後は、心を大切にしたい助け合いの仕組みが必要となる社会になると考える。新しい地方を作っていくための取り組みが改めて必要であり、議会でも議論を進めていきたい。ぜひ市民の皆さんの声を聞かせてほしい。

○新市長は、中学校給食実施に向けた取り組みを進めていく方針であるのか。

⇒議員 中学校給食の実施は、新市長の公約にも掲げられており、また、前市長も中学校給食を導入する方針であったため、実施の方向性であると考えます。

○今年度の当初予算にて、生活に身近な道路整備予算が2億円追加され、市民としては感謝している。来年度予算はどのような見込みであるのか。

⇒議員 今年度は、追加予算2億円のうち1億円分の執行見込みであるため、未執行の1億円を来年度予算に繰り越した予算額とし、以降も当該金額にて推移するとの説明を受けている。

○1億円の予算を執行できなかったことは問題である。また、土木要望工事については、

地域も計画を立てて進めているが、スピード感が遅いと感じる。今年度の工事進捗率は3割程度であると聞いているが、計画通り確実に実施し、来年度も今年度同様の予算額としてほしい。

⇒議員 行財政改革に伴う人員削減による職員不足も要因であると考える。

⇒議員 現在の職員体制であれば、1億円の増額が適当ではないかと考える。また、予算を増額し続けると、要望も際限なく増え続けるため、事業整理も必要ではないかと考える。しかし、現状の工事進捗状況は若干遅いと感じることから、少しでも前進できるような予算化の必要性を感じるため、該当委員会へ意見を申し伝える。

⇒議員 近年の人件費や材料費の高騰に伴う、工事進捗の遅延による効率性の悪化を回避するためにも増額を行った。また、実施事業の選択や集中を期待していたが、その成果があらわれなかったため、今後は効率的な予算執行の手法の検討が必要であると考える。

○後継者不足は市職員だけでない。三重県では、消防分団員の後継者不足への対策として、店舗等での優遇措置を検討している。しかし、民生児童委員や保護司等も同様に不足しており、特定の特別職だけが優遇される施策には疑問を感じる。

○職員不足が予算を執行できない原因の一つであるとのことであるが、業者が設計や工事等を行っているのではないのか。

⇒議員 当委員会では把握しかねるため、ご希望の場合は、議会報告会終了後に連絡先をお伺いしたうえで、個別に回答いたしたい。（※）回答希望はなかったが、都市・環境常任委員会へ意見を申し伝える。

○楠町は合併前から公共下水道事業を行っており、現在ではほぼ全家庭への敷設が完了した。しかし、下水道使用料が高額であることから、他の地区も含め、公共下水道への接続率が低く、接続した家庭のみが下水処理に要する費用を負担しており不公平である。また、接続促進のための取り組みが年1回の案内文配布のみであるため、もっと積極的に取り組んでもらいたい。例えば、未接続の家庭への戸別訪問を行うことで接続数は増えると考えられる。費用負担の公平性に加え、地球環境のためにも接続の促進をお願いしたい。

⇒議員 公共下水道に接続していない家庭は合併浄化槽を利用しているが、合併浄化槽の清掃費用と下水道使用料との金額に大きな差はないと思われる。公共下水道への接続の強制はできないが、議会内でも早期に接続を促すべきであるとの意見もある。

⇒議員 本市では、公共下水道の整備計画を策定し、接続が必要な地域に対して効率的・経済的に整備を行っている。また、下水道事業は市民の皆さんから徴収した下水道使用料だけではなく、税金も投じて行っている。なお、公共下水道への接続による費用対効果が低い場所においては、市民負担の軽減のために補助金を交付して合併浄化槽の整備を行っている。

⇒議員 いただいた意見は都市・環境常任委員会に申し伝える。